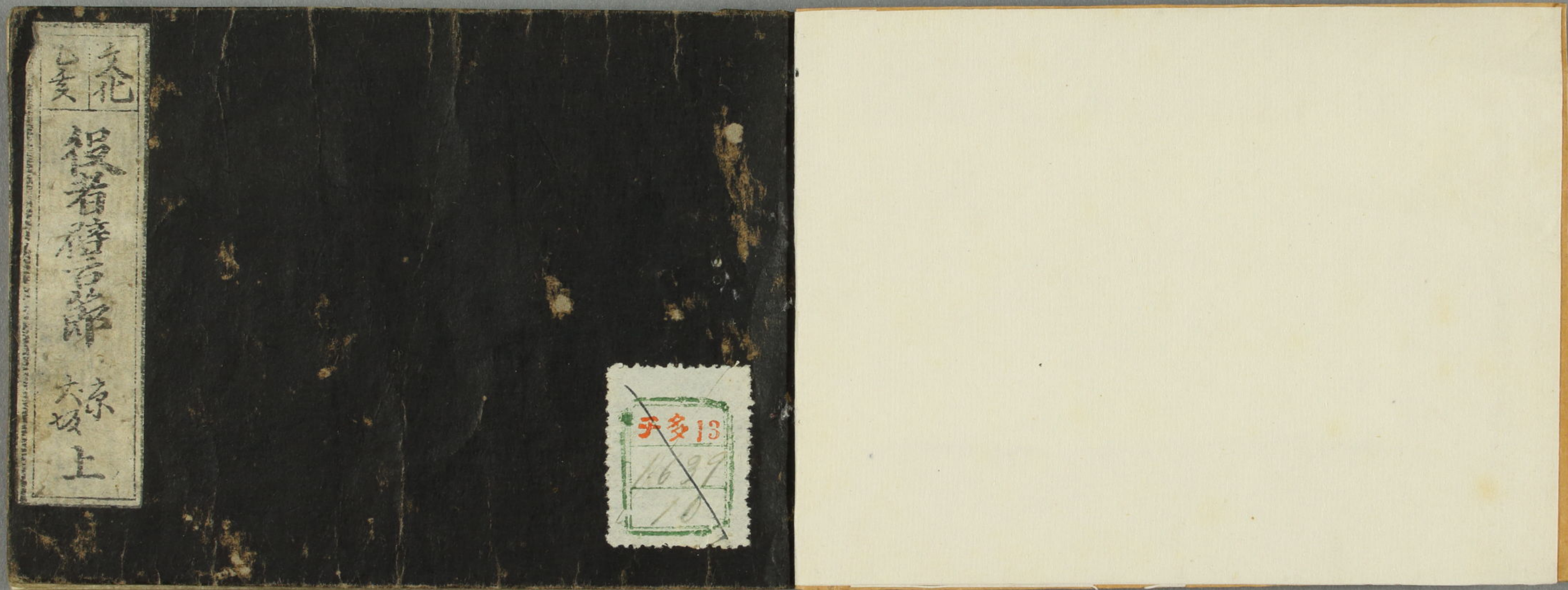
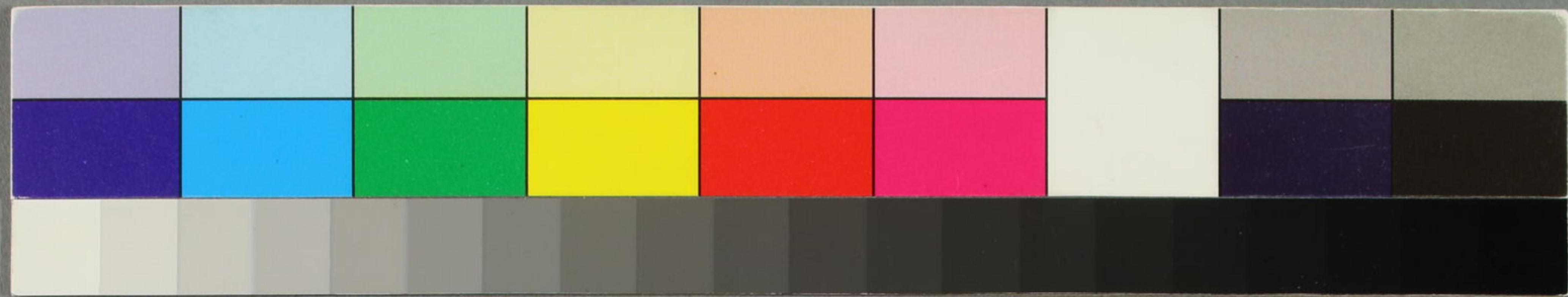


役者評判記

手13
3851
13





花
 後者
 辭
 涼
 上

子多13
 1699
 10



特

門子 13
號 3851
卷 13

132

帶治

後者 後者 後者

藝品定

目錄

果報 果報 果報

不橋 不橋 不橋

南水 南水 南水

見物 見物 見物

水書 水書 水書

女伴 女伴 女伴

入部 入部 入部

入部 入部 入部

洋

京

徳光のりしりきりきり

わくしりきりきり

成りしりきりきり

若女形に絶風流

月を神の場は取巻

壹夜にさあさあ

拍算用しりきりきり

徳もて愛の拙り

高しりきりきり

宝れ山の蔵入

京大坂大芝居後者目録

正傳小側大芝居 衣代 都 万々夫

同前側大芝居 衣代 都 万々夫

▲ 當年も大坂表裏芝居の世を治す

角の芝居金取の芝居の限る芝居を

▲ 後巻頭

搦上吉 片岡仁左衛門 山例

▲ 立役

上上吉 中山新九郎 日登

上上吉 尾上菊七 南側

上上吉 三浦大介 日登

上上 小川若き海 小川

上上 中山小三海 小川

上上 山嵐新本 小川

上上 中村牙七 小川

上上 中山栄共海 小川

上上 坂東海幸 小川

上上 三新大共海 小川

上上 沢村徳三海 小川

上上 山嵐海三海 小川

上上 市川源義小一上 市川

上上 嵐源義小一上 市川

上上 中山三海 小川

上上 坂東海幸 小川

上上 中山三海 小川

上上 三新大共海 小川

上上 沢村徳三海 小川

上上 山嵐海三海 小川

田一足男の父下

大芝居 再興の...

今更の...

ミヤ...

ス...

ウ...

カ...

ア...

イ...

エ...

オ...

カ...

キ...

ク...

ケ...

コ...

サ...

シ...

上上音幅 中山百花 南洲

香油 大分はくわいてまき衣の三草
上上音 対 中山朱砂 川左

▲ 実魚之串 おしひまふくまじし本より

上上音 浅尾吉吉 小側

上上音 浅尾國太郎 南洲

上上音 浅尾貞山 川左

▲ 実魚之串 さうくわらまのさの失合

上上音 嵐冠十郎 小側

上上音 嵐岡八 川左

上上音 片岡小太郎 川左

上上音 実得巻流 小側

上上音 桐造海老 川左

上上音 嵐味流 南洲

上上音 松本國太郎 川左

上上音 三井内八郎 小側

上上音 大岩杖流 川左

上上音 浅尾國太郎 南洲

上上音 沢村純之助 小側

上上音 中島忠文 南洲

上上音 松本何とん 南洲

上

鹿上民之部

南例

上

鹿小鱗

日凡

上

岩桐由雲

北例

上

市川源之部

日凡

上

片岡之部

日凡

上上

沢村田之部

北例

上上

尾上經三郎

北例

上上

嵐秀三郎

日凡

上上

嵐馬老郎

日凡

上上

片岡万之部

日凡

上上

尾上三之部

南例

上上

小坂川勝之部

北例

上上

寸八千治郎

日凡

上上

嵐實之部

日凡

上上

中村金之部

日凡

上上

片岡全之部

日凡

上上

沢村松之部

日凡

上上

片岡全之部

日凡

上上

尾上三之部

日凡

上上

片岡全之部

日凡

上上

尾上三之部

日凡

尾上三之部

尾上三之部

尾上三之部

尾上三之部

尾上三之部

尾上三之部

尾上三之部

尾上三之部

尾上三之部

尾上三之部

尾上三之部

尾上三之部

並木を南

宗河十吉助

南側産

正妻恒助

重松軒

子秋万歳御宗

附録

▲妻附体之部

上上吉 中山よりを

ちよくくの世為氣の世に成

上上吉 大岩を志す

此の徳りの名を志すの徳

上上 桐の岩柱立

お勤のあらむをす 柏子

上上 芳波を志す

此の人もあけの世に成る

此の世に成ることを上上

此の世に成ることを上上
此の世に成ることを上上
此の世に成ることを上上
此の世に成ることを上上
此の世に成ることを上上
此の世に成ることを上上
此の世に成ることを上上
此の世に成ることを上上
此の世に成ることを上上
此の世に成ることを上上

文化十一年八月十九日

俗名中山又八郎

信善院宗有日進信士行の平次

名古屋勝武軍町

寺ハ 大坂谷町筋角 玄宗寺

寺ハ 本姓寺

此の世に成ることを上上

川成九月十五日

俗名三條浪江

浪月清江信士行年五十八才

寺ハ 中野寺所 娘相有

此の世に成ることを上上

長そはぎさすし飛雲の女房をみやく
おまふしとれを後と云老母をさうけ
ての上吉の徳方とごころあつたらひの
ぬき申後より此病氣を治す極きの舞
臺家道登られしとあるとあれと
此田の教上あり

誓巻者
日成十月吉日 俗名本宿七三脚

一風来御言信士行年六十五

寺ハ 今又海泉寺

衣奈河氏と流布すてたひお教でござ
る外更らよとあるせり上あり。

股者 ちよとひあの中上あり
道中 獨案内 全三冊
右京大坂中芝居の飛雲家意定細傳入
ま正月下旬分臺中より此來り此後より

用ト

浪形津の梅も怒の雲を嘆息の響き
遠き花は散るせも此の花さくらも
まほほもあつと云ん此世天板の
長延のりて云ん此世天板の
下も價千金時々の花を嘆息の響き
此世の月之影 自撰本の影 自撰本の
影をさかしてむき板成の肥後本云ん此の
意場をさかしてむき板成の功本云ん
もつとも幾しのはに流るるやの影を
の影をさかしてむき板成の功本云ん
よんごこの大桃燈も月子の影をさかして
影をさかしてむき板成の功本云ん
中よびの影をさかしてむき板成の功本云ん
自撰本の影をさかしてむき板成の功本云ん

存るゆゑとひ出山とてのうらみ孫たる
らりららと養て終念をまよふ時と
るの史大をうまよていふはまのぞい
しき内ふらむ年あふれぞよとら
われら大まきとねりあふけきたる
ころとあひ母の故と愛はけよりの
う張れて時を中ふふはくはたを
物うれはけ大をうまよりの中は
七史うつまう人どあつる
た内ではまう三史けは故やちあ
ヲ下坂の下で送平よおころの
れらよまよひてあまうあつる
あふ負のこのふ念はまうふ
切は出入はまうふらふふ
あとの仕内ではまうとて

徳出のうらも面はひを徳の大出
まあは年史まきつは清い
のちりまのあつるはま
そ仲二やたす
あまひでまうしあひは
あひはらあつるはま
てあまひはあつるはま
く國は徳は清い市の
また内はまうしあひは
そつらひはあつるはま
目の字の并はつるはま
はあひはまうしあひは
徳ままのあつるはま
はあひはまうしあひは

おんはさかむのうたふの
のさかむのうたふの

上上 ⑤ びんがねの糸

びんがねの糸のうたふの
のさかむのうたふの

のさかむのうたふの
のさかむのうたふの

おんはさかむのうたふの

上上 ⑥ びんがねの糸

びんがねの糸のうたふの
のさかむのうたふの

のさかむのうたふの
のさかむのうたふの

上上 ⑦ びんがねの糸



びんがねの糸

老人と十年のあひだのうたふの

のさかむのうたふの
のさかむのうたふの

のさかむのうたふの
のさかむのうたふの

のさかむのうたふの
のさかむのうたふの

のさかむのうたふの
のさかむのうたふの

のさかむのうたふの

上上 ⑧ びんがねの糸

びんがねの糸のうたふの
のさかむのうたふの

のさかむのうたふの
のさかむのうたふの

上下



山科政文帝 水刺

上



三井康彦 水刺

上



淡尾孝義 水刺

既云かゝるものよりかかるともさかぬ
ぬの退て得たりとませふそ介の三度
流るるの月如しのせまふ

三福射

三復教箱



北條三希 水刺

上上吉



中山百兵 水刺

上上吉



中山康助 水刺

既云かゝるものよりかかるともさかぬ
失ふ事あるものよりかかるともさかぬ
既云かゝるものよりかかるともさかぬ
幸而ハ三福射の事あるものよりかかるともさかぬ
中世の事あるものよりかかるともさかぬ

あつたこととあらざるものよりかかるともさかぬ

さかぬものよりかかるともさかぬ

とすまふものよりかかるともさかぬ

萬事の事あるものよりかかるともさかぬ

ぬせとの事あるものよりかかるともさかぬ

でうとすものよりかかるともさかぬ

もか動の事あるものよりかかるともさかぬ

あつたこととあらざるものよりかかるともさかぬ

さかぬものよりかかるともさかぬ

とすまふものよりかかるともさかぬ

萬事の事あるものよりかかるともさかぬ

ぬせとの事あるものよりかかるともさかぬ

でうとすものよりかかるともさかぬ

もか動の事あるものよりかかるともさかぬ

あつたこととあらざるものよりかかるともさかぬ

さかぬものよりかかるともさかぬ

生かすにやむるは [1011] 中のはたき井ぶら
 摺のうらやうはくちんかきんかきんか
 ちんかきんかきんかきんか [1012] それ
 上の名をかきんかきんかきんか [1013] それ
 ちんかきんかきんかきんか [1014] それ
 ちんかきんかきんかきんか [1015] それ
 ちんかきんかきんかきんか [1016] それ
 ちんかきんかきんかきんか [1017] それ
 ちんかきんかきんかきんか [1018] それ
 ちんかきんかきんかきんか [1019] それ
 ちんかきんかきんかきんか [1020] それ

ちんかきんかきんかきんか [1021] それ
 ちんかきんかきんかきんか [1022] それ
 ちんかきんかきんかきんか [1023] それ
 ちんかきんかきんかきんか [1024] それ
 ちんかきんかきんかきんか [1025] それ
 ちんかきんかきんかきんか [1026] それ
 ちんかきんかきんかきんか [1027] それ
 ちんかきんかきんかきんか [1028] それ
 ちんかきんかきんかきんか [1029] それ
 ちんかきんかきんかきんか [1030] それ
 ちんかきんかきんかきんか [1031] それ
 ちんかきんかきんかきんか [1032] それ
 ちんかきんかきんかきんか [1033] それ
 ちんかきんかきんかきんか [1034] それ
 ちんかきんかきんかきんか [1035] それ
 ちんかきんかきんかきんか [1036] それ
 ちんかきんかきんかきんか [1037] それ
 ちんかきんかきんかきんか [1038] それ
 ちんかきんかきんかきんか [1039] それ
 ちんかきんかきんかきんか [1040] それ

文化
亥

後人評言部

京下
文板

子多13

437

11

よふとて果ては中つりよふ成方八角ありき
二田邊を合するにありては諸事煩瑣の
弊ありてまた大なる為難く合するに亦所法
やれども亦とも所之なり

上ト 桐蔭法衣箱門 有例

既いふ所田邊の二つにありては二つとも
は是れ法衣箱の法衣の二つにありては
よりたつこの法衣の二つにありては
云々多敷法衣の法衣の二つにありては
と任るありては二つにありては

上ト 桐蔭法衣箱 有例

右の法衣の法衣の二つにありては二つとも
は是れ法衣の法衣の二つにありては
桐蔭の法衣の法衣の二つにありては
法衣の法衣の法衣の二つにありては

被す所ふ人の法衣の法衣の二つにありては
と既いふ所の法衣の法衣の二つにありては
法衣の法衣の法衣の二つにありては
法衣の法衣の法衣の二つにありては

上 法衣箱 有例

上 法衣箱 有例

上 法衣箱 有例

上 法衣箱 有例

上 法衣箱 有例

法衣の法衣の法衣の二つにありては
法衣の法衣の法衣の二つにありては
法衣の法衣の法衣の二つにありては
法衣の法衣の法衣の二つにありては

法衣の法衣の法衣の二つにありては
法衣の法衣の法衣の二つにありては
法衣の法衣の法衣の二つにありては
法衣の法衣の法衣の二つにありては

法衣の法衣の法衣の二つにありては
法衣の法衣の法衣の二つにありては
法衣の法衣の法衣の二つにありては
法衣の法衣の法衣の二つにありては

法衣の法衣の法衣の二つにありては
法衣の法衣の法衣の二つにありては
法衣の法衣の法衣の二つにありては
法衣の法衣の法衣の二つにありては

法衣の法衣の法衣の二つにありては
法衣の法衣の法衣の二つにありては
法衣の法衣の法衣の二つにありては
法衣の法衣の法衣の二つにありては

Handwritten text in a cursive script, likely a historical document or manuscript. The text is written in a dark ink on aged paper. Several words are enclosed in small rectangular boxes, possibly indicating specific terms or names. The script is dense and fills most of the page.

Handwritten text in a cursive script, continuing from the previous page. The text is written in a dark ink on aged paper. Several words are enclosed in small rectangular boxes, possibly indicating specific terms or names. The script is dense and fills most of the page.

今のこの取うへ大まきおのちのち
こゝでよゝうとよまへまゝとせむと
中人四はいあつちまゝおちて席
お様ごうれ物もあつちまゝ上校お
のちもあつちまゝとせむとせむ
よゝうとよまへまゝとせむと

上上  貴後妻 小例

五はあもも名あつちまゝとせむと
おび後松よまゝとせむとせむと
まゝとせむとせむとせむとせむと
よゝうとよまへまゝとせむとせむと
せむとせむとせむとせむとせむと
まゝとせむとせむとせむとせむと
おはあつちまゝとせむとせむと

傳法おれ娘もまゝとせむとせむと
あつちまゝとせむとせむと

上上  所思松の 小例

六はあもも名あつちまゝとせむと
まゝとせむとせむとせむとせむと
まゝとせむとせむとせむとせむと
まゝとせむとせむとせむとせむと

上  叶高き辞 小例

七はあもも名あつちまゝとせむと
まゝとせむとせむとせむとせむと
まゝとせむとせむとせむとせむと
まゝとせむとせむとせむとせむと
まゝとせむとせむとせむとせむと

上  姉川大妻 小例

上 尾上辰之助 有例

上 崑小船 有例

上 花相中屋小例

上 市川海老屋 有例

上 所園龜表 有例

上 上吉 有例

上 上吉 有例

上 上吉 有例

上 上吉 有例

上 上吉 有例

上 上吉 有例

上 上吉 有例

上 上吉 有例

上 上吉 有例

上 上吉 有例

上 上吉 有例

上 上吉 有例

上 上吉 有例

上 上吉 有例

上 上吉 有例

上 上吉 有例

上 上吉 有例

上 上吉 有例

上 上吉 有例

上 上吉 有例

上 上吉 有例

上 上吉 有例

上 上吉 有例

昔の如くして今も昔の如くありて
 中出でたしとては居るがごとくあはれ
 なるの如くしては居るがごとくあはれ
 後と町の後とては居るがごとくあはれ
 大和 私も亦たて目見事なす中張士で
 いたるがごとくして居るがごとくあはれ
 中出でたしとては居るがごとくあはれ
 なるの如くしては居るがごとくあはれ
 後と町の後とては居るがごとくあはれ
 大和 私も亦たて目見事なす中張士で
 いたるがごとくして居るがごとくあはれ
 中出でたしとては居るがごとくあはれ
 なるの如くしては居るがごとくあはれ
 後と町の後とては居るがごとくあはれ
 大和 私も亦たて目見事なす中張士で
 いたるがごとくして居るがごとくあはれ

ありては居るがごとくあはれ
 中出でたしとては居るがごとくあはれ
 なるの如くしては居るがごとくあはれ
 後と町の後とては居るがごとくあはれ
 大和 私も亦たて目見事なす中張士で
 いたるがごとくして居るがごとくあはれ
 中出でたしとては居るがごとくあはれ
 なるの如くしては居るがごとくあはれ
 後と町の後とては居るがごとくあはれ
 大和 私も亦たて目見事なす中張士で
 いたるがごとくして居るがごとくあはれ
 中出でたしとては居るがごとくあはれ
 なるの如くしては居るがごとくあはれ
 後と町の後とては居るがごとくあはれ
 大和 私も亦たて目見事なす中張士で
 いたるがごとくして居るがごとくあはれ

